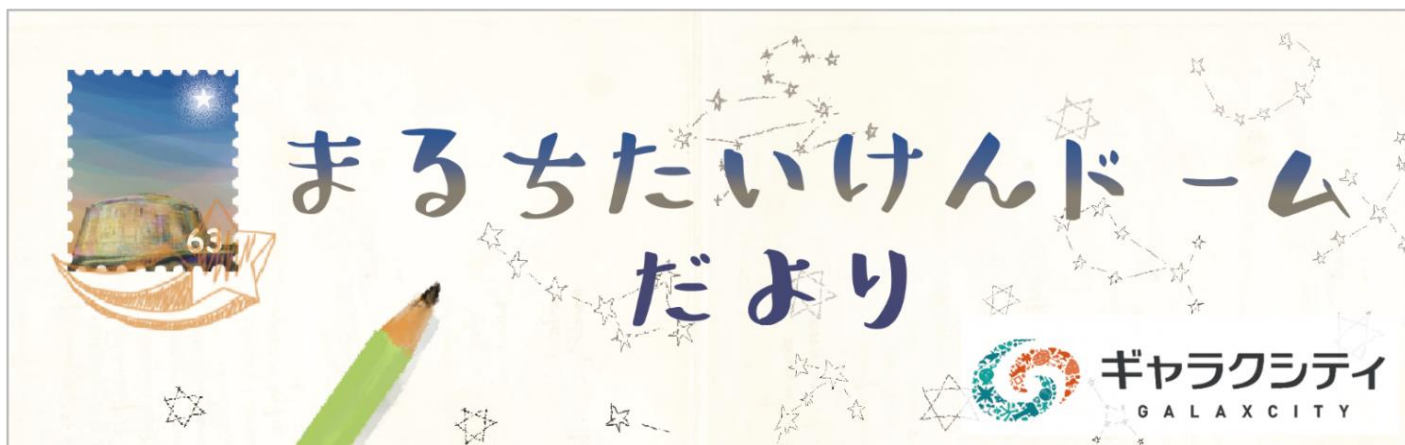
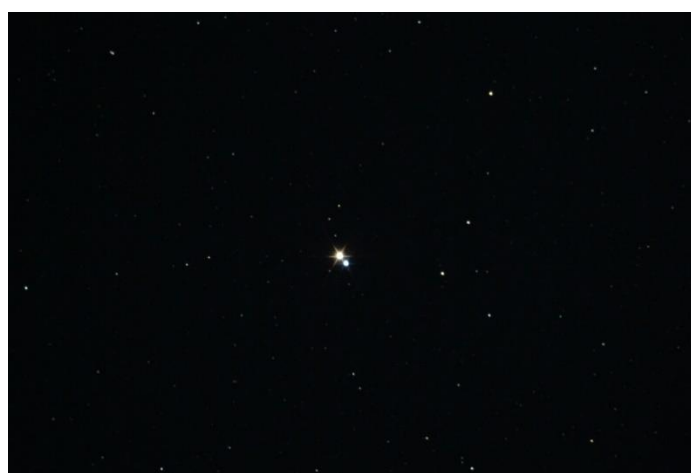




星の色の違いは？

星の光には色の^{ちが}いがあることは、小学校の教科書にも載^のっています。でも、どれも同じに見えるような気がします。色の分かりやすい星として、夏に見られるさそり座の1等星アンタレス、冬に見られるオリオン座のベテルギウスは明らかに赤い感じに見えます。また、おうし座のアルデバランもオレンジ色に見えます。しかし、そのほかの星の色の^{くべつ}区別はほとんどつきません。太陽も黄色い星という区分になっているのですが、白にしか見えないという人もいます。いいえ、白く見えるはとても自然なことです。



色の対比が美しいはくちょう座の二重星アルビレオ
1997年田部一志撮影

星の光は様々な色（赤、^{だいたい}橙、黄、^{あい}緑、青、^{むらさき}藍、紫など）が混ざって地球に届いています。全部混ざると白になるわけですが、どの色の光が強いかによって星の色の見え方が違うのです。

このように色の違いは^{びみょう}微妙です。人の目は、暗い光ほど色を感じなくなりますが、^{ぼうえんきょう}望遠鏡を使うと、星の色はぐんと見やすくなります。写真は、^{みやざわけんじ}宮沢賢治が「^{ぎんがてつどう}銀河鉄道の夜」の中でも紹介している^{にじゅうせい}二重星「アルビレオ」です。オレンジ色と青い星の色の^{たいひ}対比は口径8cmくらいの望遠鏡なら十分に楽しむことができます。ギャラクシティの「星を見る会」でも夏によくお見せしています。

（解説員：田部 一志）